

大阪府介護生産性向上支援センター
伴走支援プログラムDAY 5（成果報告）

医療法人浩治会 大今里ケアホームによる生産性向上の取り組み報告

2025年 3月11日

【事業所名】 医療法人浩治会大今里ケアホーム

01 法人・施設概要

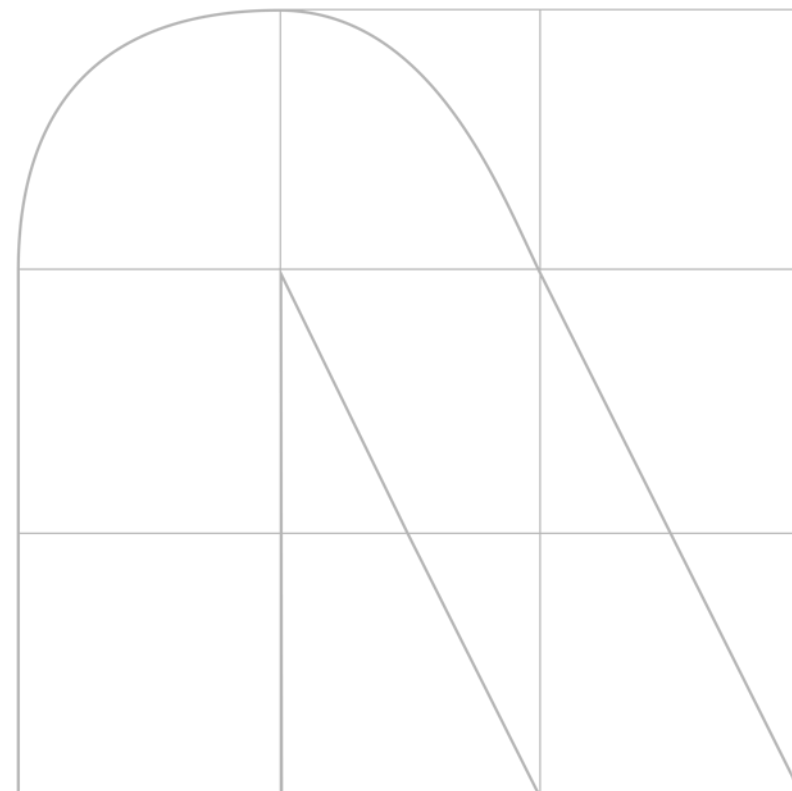
02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01

法人・施設概要



KOCHIKAI

SINCE 1994

SINCE 1994

介護老人保健施設 大阪城ケアホーム

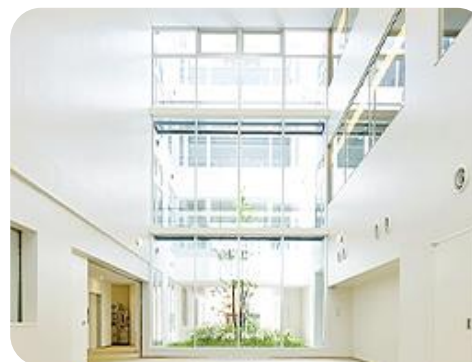
介護老人保健施設 大今里ケアホーム

グループホーム ゆめの里

介護付有料老人ホーム 大宮ケアホーム光

医療法人浩治会

大阪市東成区大今里西2-17-16



介護老人保健施設 大今里ケアホーム

- 大阪市東成区大今里西2-17-16
 - 2005年11月開設
 - 従来型の介護老人保健施設
 - 入所定員136床
 - 平均介護度3.4
 - 平均年齢87.1歳
 - 職員数109名
-
- 透明、公平、公正な経営を行う
 - 利用者、職員、地域社会を幸せにする
 - 創意と工夫で、充実した医療、介護サービスを実現する



01 施設概要

大今里ケアホームフロアマップ

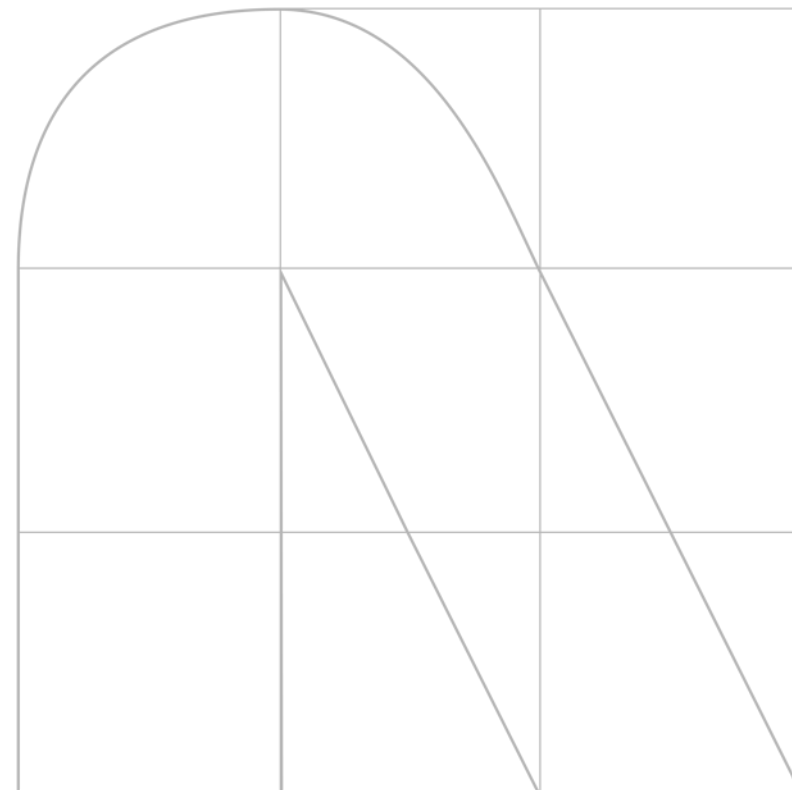


2階34床 3階35床 4階35床 5階32床

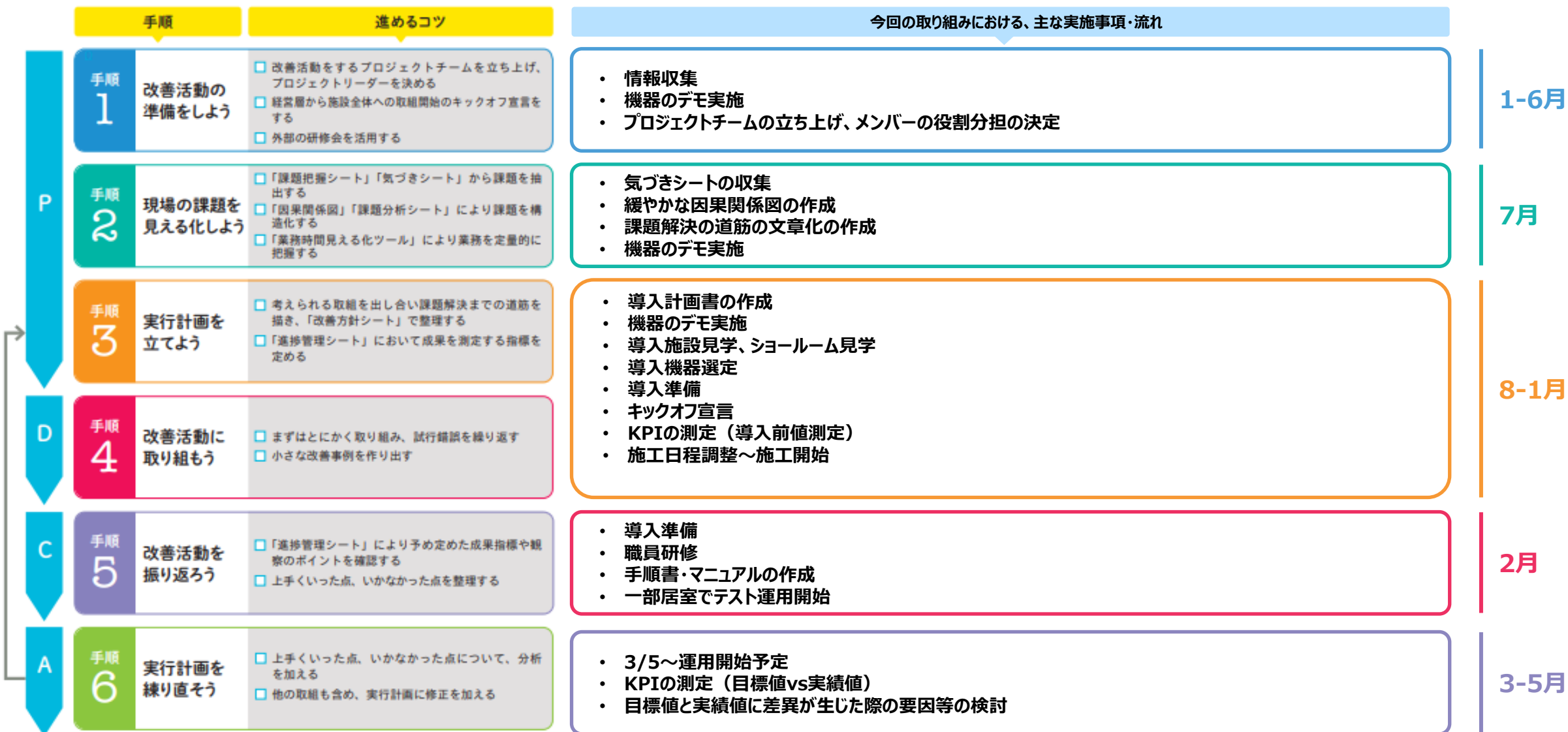


02

取組概要・流れ

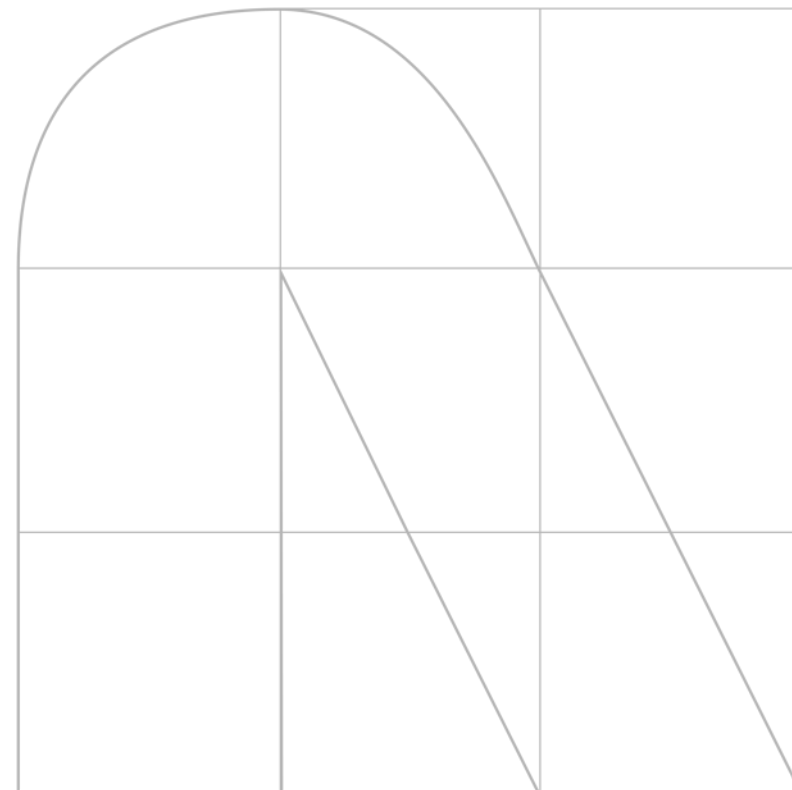


02 取組概要・流れ



03

取組結果・成果



取り組みを始めたきっかけ

- コロナ禍で感染予防や感染対策業務が増え職員の業務負担軽減が必要だと感じていた
- 施設内でコロナ陽性者が発生した際に、なるべく無駄な訪室を避けるにはどうすれば良いか？を模索しており、見守り機器やICT機器の導入を検討していた
- ナースコールシステムが19年間更新できておらず、老朽化による故障や不具合が頻回に起こるようになり、新たなナースコールシステム導入検討が必要であった
- 科学的介護の実践を目指し職場環境のアップデートが必要であった
- 上記課題の解決策を検討続ける中で国が進めている介護現場の生産性向上の取り組みを知り、本格的に取り組んでいくこととなる

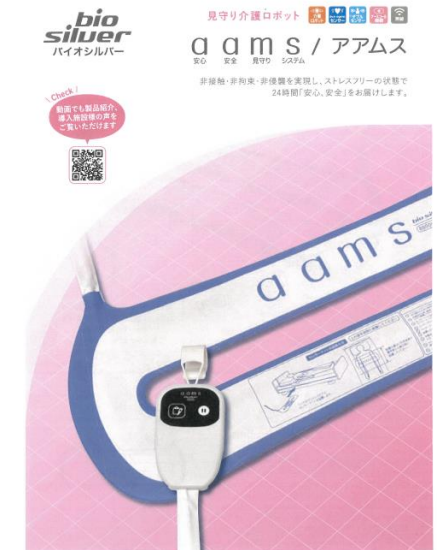
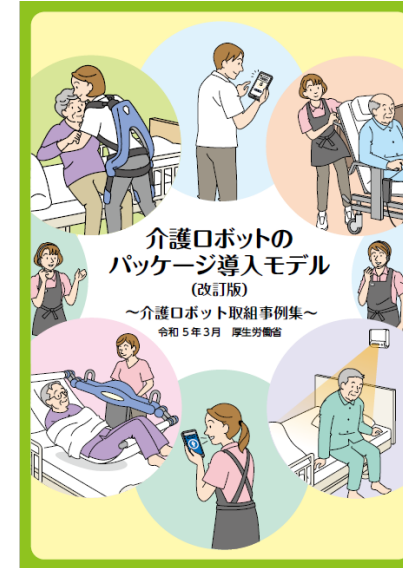


【プロジェクトチーム発足】

プロジェクトチーム 役割分担	
事務長	統括責任者
介護長	プロジェクトリーダー
介護長補佐	研修担当・マニュアル担当・運用ルール担当
事務主任補佐	調査担当・事務担当
施設CM	技術担当
RH課長補佐	リスク検討担当
看護師	リスク検討担当

情報収集

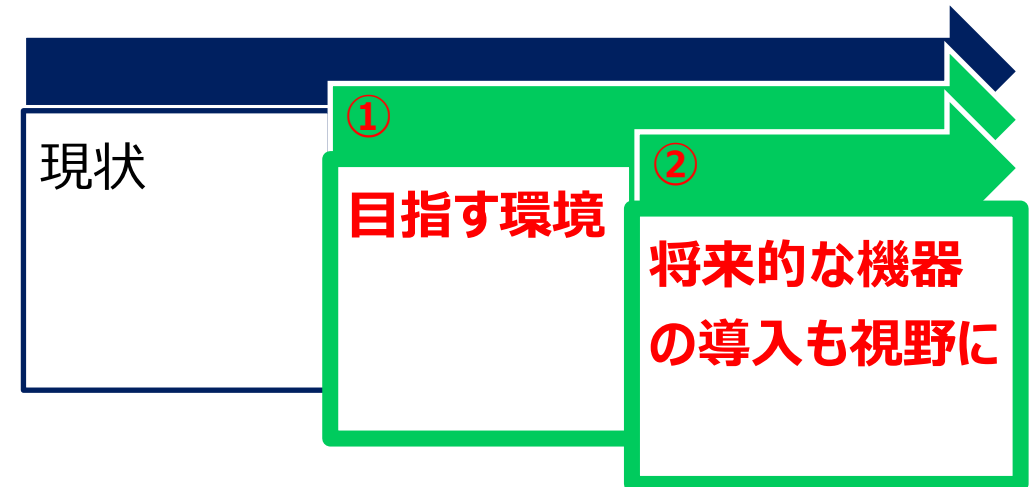
- ・ 介護ロボットのパッケージ導入モデル
- ・ 各種展示会
- ・ 業者からの紹介
- ・ 各種セミナーへの参加
- ・ 大阪府介護生産性向上支援センターへの相談



【情報収集で気づいたこと】

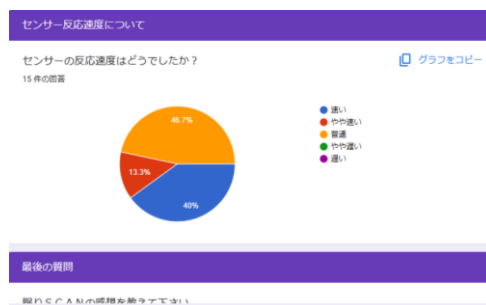
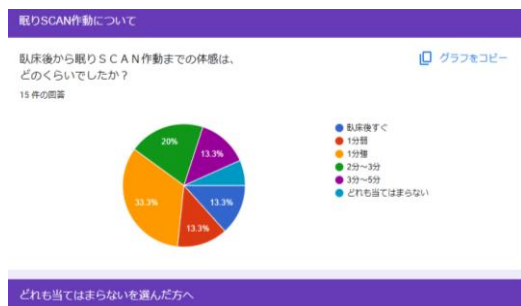
- 機器同士の連携やナースコールとの連携、通知を受ける端末との連携やその為に必要な施工、Wi-Fi環境も含めて情報収集が必要だと感じた
- 特にWi-Fi環境整備に関しては業者によって提示される内容に大きく違いがあり、自分たちが介護テクノロジーを導入して何をしたいのか？ 機器と端末でどんな連携をしたいのか？ どんな環境を構築したいのか？ を明確にし、更に今回の導入だけでなく将来的に別の介護ロボットやICT機器を導入しても運用可能なWi-Fi環境を構築する必要があると強く感じた

※①と②を明確にすることが必要！



【デモの実施】

- 情報収集と並行しながら様々な機器のデモを実施
- デモを行う度に使用感や感想をGoogleフォームでアンケート集計、不具合あったことはGoogleドキュメントに入力してもらう等、プロジェクトメンバーが職員の意見をスピーディー且つ効率的に共有できるようにした



カメラ設置について

カメラ設置についてどう思いますか？
15件の回答

起き上がりのタイミングが分かりやすく良いですが、プライバシーの面ではどうなのかなと思います。

目的と利用者の設置期間など、具体的に知りたいです。

もう少し動きが鮮明に見れたら良いと思います。若干コマ送りに見えたりする時がありました。

プライバシーの部分は気になるが、事故原因の追求や虐待防止などの観点から考えるとあっても良いと思う。

プライバシーへの配慮は、気にかかる。利用者、職員共に。

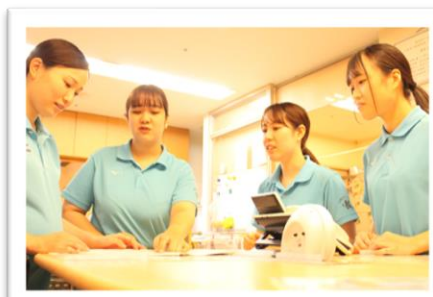
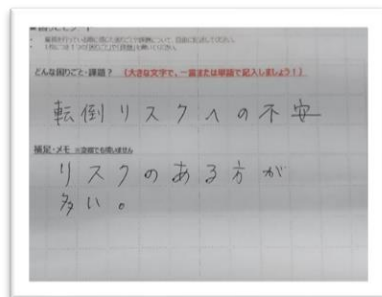
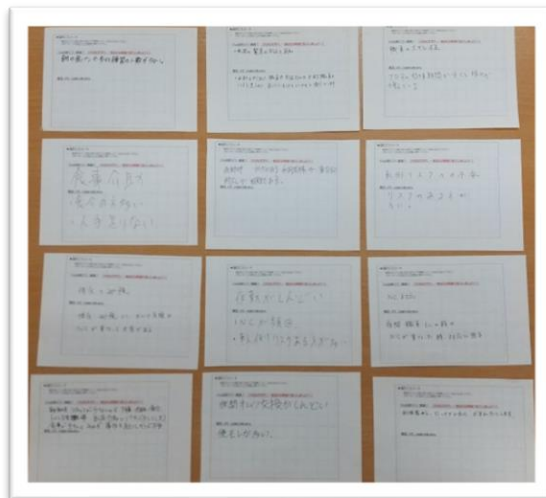
プライバシーの配慮の観点で利用できる方は限られると思います。

- その結果次の**デモで試さないといけないことや、重要視しないといけないポイント**が分かる

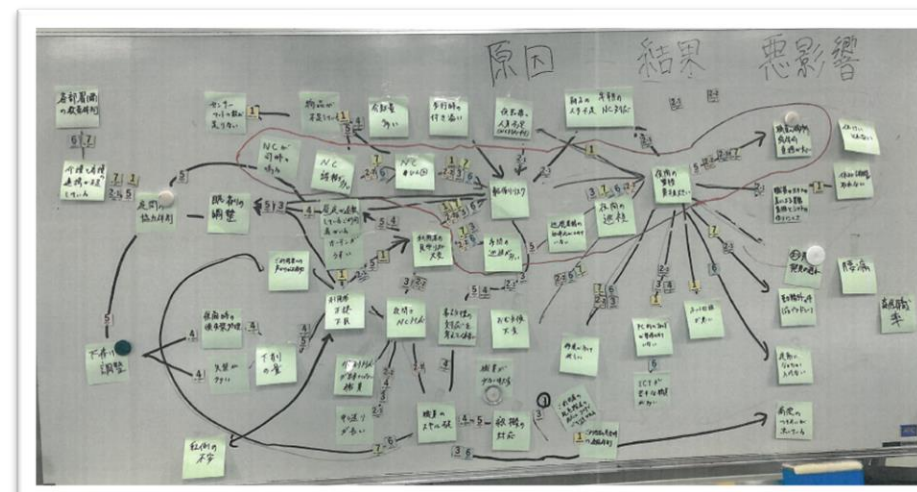
03 取組結果・成果

【手順2】現場の課題を見える化しよう

【気付きシートで課題の抽出】



【因果関係図の作成】



【気づきシートで見えてきた課題】

- 夜間帯の転倒リスクがある利用者対応に不安があるや、ナースコール対応が大変等の意見が多く、夜間帯の業務負担軽減が必要であることが分かった

【結果】

- 気づきシートで見えてきた課題をもとに因果関係図を作成
- 転倒リスクの不安、夜間ナースコール対応の負担に対する打ち手を検討

【課題解決の道筋】

- 課題の抽出と因果関係図の作成による結果をもとに課題解決の道筋シートを作成した

深堀原因

転倒リスクの不安から無駄な訪室や巡視、無駄なNC対応が多いこと に対し

介護ロボットの種類

カメラ型見守り支援機器 を導入し

好転換された
深堀原因

居室内の状況を見える化することで、無駄な巡視やNC対応の回数を減らすことが可能 となり、

原因

転倒リスクの不安 とゆう問題が軽減され

結果

夜間の過度な業務負担 がなくなり、

悪影響

職員の精神的な負担、身体的な負担 の改善に期待が出来る。

【機器の選定】

- 現場の課題見える化によるカメラ型見守り支援機器の導入を目指し、以前より行っていた機器のデモ結果も参考にしながら機器選定を行なった
- 今回の取り組みのきっかけの一つでもあるナースコールシステムの更新も合わせて行うため、ナースコール一体型のカメラ型見守り機器を導入するのか？ナースコールシステムとカメラ型見守り機器は分けて導入するのか？の検討必要であり、以下の9項目で比較を行った

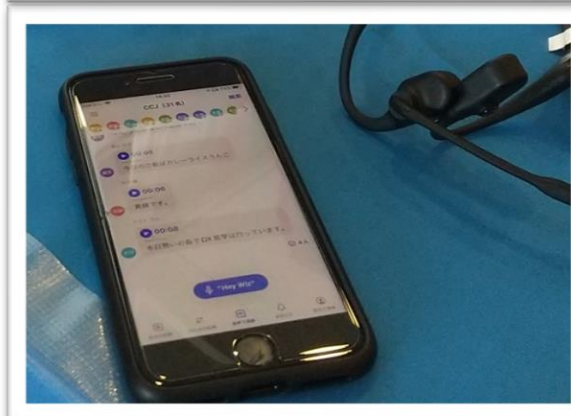
- ナースコール
- 見守り機能
- カメラ
- スマホ連動
- インカム機能
- 記録システムとの連動
- Wi-Fi工事
- 今後の拡張性
- 保守、メンテナンス

比較	Aパターン ナースコール一体型（HitomeQ）		Bパターン ナースコールと見守り機器は別	
ナースコール				
見守り機器				
カメラ				
スマホ連動				
インカム機能				
記録システムとの連動				
Wi-Fi工事				
今後の拡張性				
保守・メンテナンス				

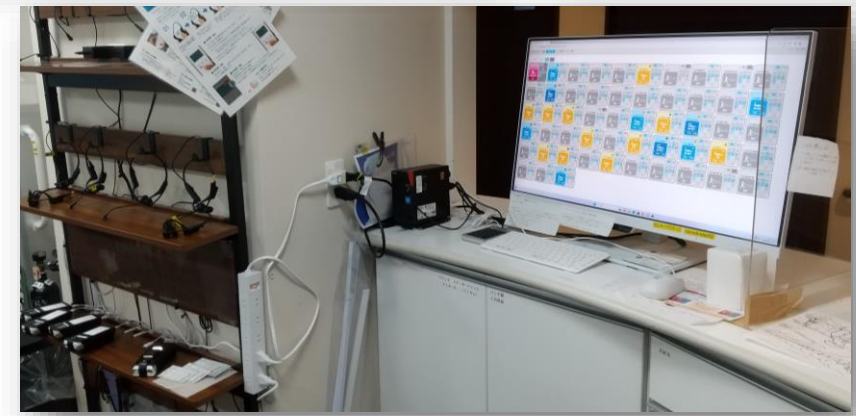
【導入施設見学・ショールーム見学】

- AパターンHitomeQ導入施設とBパターン導入施設の見学を行い、実際に運用している職員さんたちに話を聞き比較の参考にした、またショールーム見学も実施した

①AパターンHitomeQ導入施設



②Bパターン導入施設



【比較の結果】

- 比較の結果ナースコール一体型の方がカメラ、スマホ連動、Wi-Fi工事、今後の拡張性、保守メンテナンスの5項目が優れており、目指している環境にもマッチ

特に…

- ナースコール一体型はスマートフォンのみでナースコールの通知、見守りセンサーの通知も受け取れるのに対し、Bパターンは複数台持ちになる可能性があること
- せっかくナースコールシステムを更新するのに通知を受けるデバイスがPHSのままは不便、スマートフォンの方が何かと便利
- 機器に不具合が生じた場合、ナースコール一体型は窓口が1社なので迅速な対応が可能で原因も明確になるのに対し、Bパターンは複数社の窓口に依頼が必要で迅速な対応や原因究明が劣る可能性があること…

比較	Aパターン ナースコール一体型（HitomeQ）		Bパターン ナースコールと見守り機器は別	
ナースコール	○	無線Wi-Fi	○	有線
見守り機器	○	カメラ一体型	○	種類多数、NCとの連携もそれぞれ
カメラ	◎	見守り一体型	△	場合によっては全床は難しい
スマホ連動	◎	スマホのみでNC通知もセンサー通知も	△	可能だが複数台持ちになる可能性高い
インカム機能	△	インカムに資する機能あり	△	可能だが複数台持ちになる可能性高い
記録システムとの連動	○	可能	○	可能
Wi-Fi工事	○	必要	△	必要（見守り・インカムの種類による）
今後の拡張性	○		△	多くは望めない？
保守・メンテナンス	◎	不具合あっても一気通貫	×	各機種メーカーが違う、Wi-Fi業者も別

【最大の理由】

センサーの通知だけでなく

**ナースコールの通知でも居室
内の様子が確認出来ること**



ケアコールを
押したときも
映像が「みえる」



その他…

- 転倒動画を確認し根拠を持った対応が可能になること
- センサーが感知しているご利用者の行動を2分間の動画で確認可能、ご利用者の行動把握や環境設定が最短で可能になること
- HitomeQ通知アプリ内のメッセージ機能を利用して全員で情報共有が可能になること

以上の理由から

HitomeQに決定！！

【導入計画書の作成】

本プロジェクトの目的（施設として目指す姿）

- ・ 夜間帯の転倒リスクの不安などによる過度なナースコール対応等の業務負担を解消することで、職員の働きやすい環境と、利用者が安全に生活出来る環境を構築する

現場課題と解決の道筋（課題の見える化による検討結果）

- ・ 転倒リスクの不安から無駄な訪室や巡視、無駄なNC対応が多い事に対し、カメラ型見守り支援機器を導入し、居室内の状況を見える化することで、無駄な訪室や巡視やNC対応の回数を減らすことが可能となり、転倒リスクの不安という問題が解消・軽減され、夜間の過度な業務負担がなくなり、職員の精神的・身体的な負担の改善が期待できる。

導入する介護ロボット・ICT

- ・ HitomeQケアサポート 大今里ケアホーム全床136台



【導入計画書の作成】

介護ロボット・ICT等導入成果を測るKPI（成果指標）

	KPIを設定する文節 （Ⅱ現場課題と解決の道筋から 引用してください）	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
1	無駄な巡視やNC対応の回数を減らす	訪室回数	訪室回数のカウント	1回/3ヶ月
2	転倒リスクの不安	NC回数・訪室回数	転倒リスク高ご利用者のNCと訪室 回数をカウント	1回/3ヶ月
3	職員の精神的・身体的負担	職員の歩数	職員の歩数カウント（歩数計）	1回/3ヶ月
4	職員の精神的・身体的負担	精神的・身体的負担割合	アンケートの実施	1回/3ヶ月

※KPIは機器の導入効果を測定するための、定量的・定性的な指標を記載する（例：訪室回数、歩数、職員の精神的負担等）

03 取組結果・成果

【手順3】実行計画を立てよう

【導入計画書の作成】

介護ロボット・ICT等導入と同時に行う改善取組

	同時に行う改善取組 (課題の打ち手となる生産性向上の取組)	具体的内容
1	職場環境の整備	・Wifi環境を整備する ・機器の保管の為の詰所の整理整頓 ・スマートフォンを使用する環境を整える（置き場所、充電方法） ・各詰所内にHitomeQ用PC設置場所確保
2	業務の明確化と役割分担 業務全体の流れの再構築	・機器設定の決定タイミングの検討 ・訪室の際は毎回センサーオフボタンの入り切り行なう ・ベッド位置変更時、居室変更時の連絡と対応方法検討
3	手順書の作成	・誰が見てもわかるマニュアルの作成（機器の使用のルール、注意事項、スマートフォンの使用ルール）
4	記録・報告様式の工夫	・ケアプランへの反映どうするか決める ・ケア記録への入力どうするか決める
5	情報共有の工夫	・プロジェクトメンバーと職員間で“気付き”や疑問をGoogleフォームに入力し共有する
6	OJTの仕組みづくり	・メーカーからの講習を受ける ・職員で担当職員（多職種チーム）をつくる ・メーカーから継続したサポートを受ける
7	理念・行動指針の徹底	・機器導入の目的を全職員に周知する

03 取組結果・成果

【手順3】実行計画を立てよう

【導入計画書の作成】

主なスケジュール

- 9/26キックオフ宣言
- 10/1～導入前のKPI測定開始
- 12/9～施工開始
- 1月～2月職員研修
- 3/5～稼働開始予定

※2/3から本稼働開始予定になっていたが12月～1月中旬まで施設内にて感染症が拡大し導入前準備が行えず、1月以降のスケジュールが1ヶ月遅れてしまい、3/5～の稼働開始に変更

VI スケジュール			
時期	機器導入の取組	効果検証に向けた取組	同時に行う改善取組*1
令和6年 9月25日～	・一般職員向けキックオフ宣言（HitomeQ導入の目的とKPI測定の説明）	KPI測定方法と測定時期の検討	・理念・行動指針の徹底
令和6年 10月1日～		夜勤の歩数測定開始（1ヶ月間）	・職場環境の整備
令和6年 11月1日～	・HitomeQ取り付け、Wi-Fi環境整備の工事日程決め ・HitomeQ用各フロアのPC選定 ・HitomwQ導入に伴い必要な備品の選定	夜勤の訪室回数とNC回数のカウント開始（15日間）	
令和6年 12月1日～	・スマートフォン購入かレンタルを検討（法人本部） ・Wi-Fi配線工事開始（12/9～） ・各居室センサーボックス取り付け工事（12/16～） ・メーカーによる職員研修日程検討	スマートフォン導入の費用対効果（コスト面）の計算 工事の進捗報告	・コスト面の比較計算の考え方のルール化
令和7年 1月1日～	・Wi-Fiアクセスポイント、LAN配線工事、状況調査 ・メーカーによるリーダー格職員向け研修実施（1/24、1/29） ・家族へ導入お知らせ、同意書送付 ・各フロアHitomeQ用PC納品	身体的負担、精神的負担のアンケートをGoogleフォームにて実施（1/10～1/20）	・Wi-Fi機器の工事図面の保管方法 ・研修の記録の作成と共有方法
令和7年 2月1日～	・運用マニュアルの検討、作成 ・メーカーによる一般職向け研修実施 ・各フロア詰所にPC設置 ・同意書回収状況確認	・スマホ納品2/14 ・マニュアルの検討 ・テスト運用の検討	・マニュアルの作成、周知 ・テスト運用の開始 ・家族へのカメラ同意書の保管方法
令和7年 3月5日～	・HitomeQ稼働開始（3/5～）	・稼働開始日の設定 ・稼働後の問題発生時の対応	・稼働開始後の問題発生時の報告様式の作成と報告方法 ・問題発生時の解決方法

キックオフ宣言

- 9/26介護士全員参加の会議にてキックオフ宣言、HitomeQ導入の目的やKPI測定の実施方法、U字の法則等を説明

導入前のKPI測定実施

- 訪室回数、ナースコール回数のカウント
- 職員の歩数計測
- 身体的負担、精神的負担アンケートの実施



【KPI測定時の工夫】

- 計測した数値をGoogleフォームに入力してもらうことで、結果の情報共有や集計が効率的に行なえた

夜間帯の歩数計測（令和6年10月1日～10月31日）

B I U 絵 文

見守り機器導入により夜間帯の業務負担が軽減出来ているかを計測する為、夜間帯の歩数を計測しますので協力宜しくお願い致します。

勤務の種類を選択して下さい*

1. AチームY1
2. AチームY2
3. AチームYF
4. BチームY1
5. BチームY2
6. BチームYF

計測した歩数を半角数字のみで記入してください。（例：19325）*

短文回答

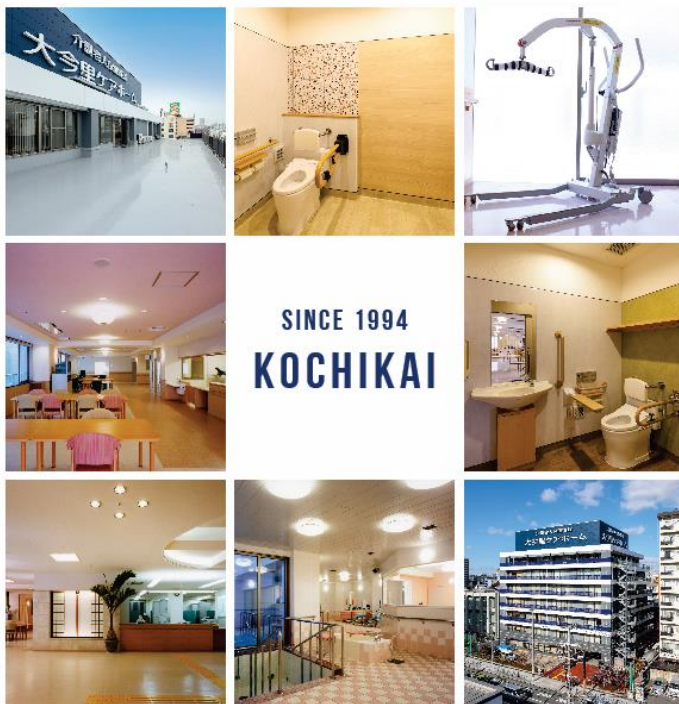
職員名を入力して下さい（フルネーム、苗字と名前の間はスペース無し）*

短文回答

情報共有と集計を 効率的に

[illegible]

勤務帯別歩数													
		A	最大値	平均歩数	最小値		B	最大値	平均歩数	最小値			
		夜勤全体	29,522	16,617	5,604		夜勤全体	26,975	15,901	5,419			
		Y1	27,052	16,689	5,604		Y1	22,564	13,101	5,419			
		Y2	21,450	15,263	8,684		Y2	24,686	16,571	6,105			
		YF	29,522	17,942	10,500		YF	26,975	16,797	8,139			
	測定日	A Y1	A Y2	A YF	B Y1	B Y2	B YF	A 最大値	A 平均歩数	A 最小値	B 最大値	B 平均歩数	B 最小値
1	10月2日(水)	14,323	13,939	17,349	12,189	14,523	20,804	17,349	15,204	5,604	20,804	15,839	12,1
2	10月3日(木)	13,981	13,087	20,745	10,009	13,062	8,139	20,745	16,217	13,087	13,062	10,403	8,1
3	10月4日(金)	5,604	15,166	16,628	20,328	6,105	14,861	16,628	12,466	5,604	20,328	13,765	6,1
4	10月5日(土)	15,368	13,601	16,463	9,088	18,572	15,928	16,463	15,144	13,601	18,572	14,529	9,0
5	10月6日(日)	20,767	10,760	16,560	22,564	11,903	16,278	20,767	16,029	10,760	22,564	16,915	11,9
6	10月7日(月)	27,052	14,543	22,351				27,052	21,315	14,543	0	#DIV/0!	
7	10月8日(火)	18,747	13,307	22,001				22,001	18,018	13,307	0	#DIV/0!	
8	10月9日(水)	21,899	16,382	10,500	8,898			21,899	16,260	10,500	8,898	8,898	8,8
9	10月10日(木)	12,501	17,100	12,055				17,100	13,885	12,055	0	#DIV/0!	
0	10月11日(金)	19,360	17,511					19,360	18,436	17,511	0	#DIV/0!	
1	10月12日(土)	14,009	16,284	18,766				18,766	16,353	14,009	0	#DIV/0!	
2	10月13日(日)	12,000	10,552	16,306				16,306	12,953	10,552	0	#DIV/0!	
3	10月14日(月)	12,562	11,829	22,569	20,911	20,023	16,261	22,569	15,653	11,829	20,911	19,065	16,2



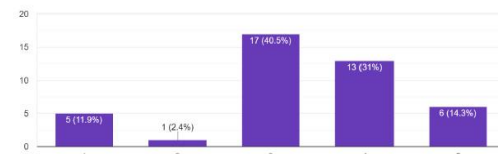
KPI測定のアンケートになります
タブレットで右のQRコードを読み込んでアンケートに答えて下さい
1/20（月）までにお願ひします
前回と少し内容が変更になっています
再度アンケートへのご協力お願い致します



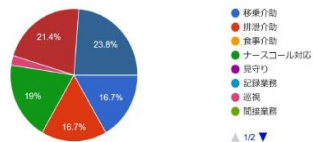
生產性向上

医療法人浩治会 大今里ケアホーム見守り機器導入前アンケート 令和7年1月10日～1月20日実施

夜勤での身体的負担はどれくらいだと感じていますか？
42 件の回答



具体的に夜間帯のどの業務に身体的負担を感じていま...下さい。 1位：最も身体的負担を感じる業務
42 件の回答



施工開始

- 12/9～施工開始
- 当初は既存のナースコールは撤去する予定だったが、万が一Wi-Fiに不具合が出てHitomeQの使用が出来なくなった場合に備えて残すことにした
- トイレにはHitomeQのナースコールと既存のナースコールのボタンが2個残ることになったため、既存の方には開閉式のカバーを取り付け見えないようにした



職員研修

- 1/24、1/29リーダー格職員向け研修開催
- 2/14、2/26、2/27一般職員向けの研修開催



必要なツールの準備

- HitomeQ用パソコンの置き場所、iPhoneの充電場所を検討し整理整頓を行なった



before



after

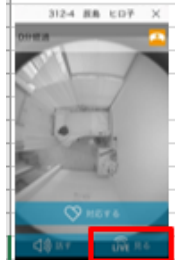


マニュアルの作成

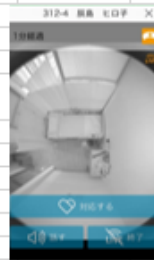
- 職員からメーカーのマニュアルは欲しい情報がどこにあるのか分からない等の意見があり、必要な情報ごとに分かりやすく写真を活用しシンプルにまとめた
- 通知内容の種類と仕組みの理解が重要と考え、確認しやすい一覧表を作成した

HitomeQ iPhone通知の対応方法

○iPhoneにCare通知がくる。



まずはLIVEをタップ！



LIVEで状況を確認し訪室を判断

訪室不要な通知 → LIVE画面で状況確認のみ → 対応する

訪室が必要な通知 → 訪室し対応後 → 対応する

Care通知が鳴り、すでに緊急を要する状況の場合
LIVEや話すをタップする前に訪室して下さい。

○複数のCare通知がきた場合。



複数の通知がくると画面上部に通知の数だけ「●」が表示され、左右へ画面もスライドする事で、すべての通知を確認する事ができます。

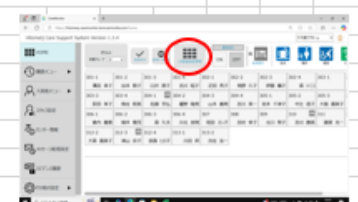
※複数のCare通知がきた場合、繰り返し通知音が鳴ります。
慌てず、すべての通知をスライドで確認したうえで、優先順位もつけ訪室して下さい。
『対応する』を押すと映像が見えなくなります。

状況確認を行い、対応が決定するまでは『対応する』をタップしないで下さい。

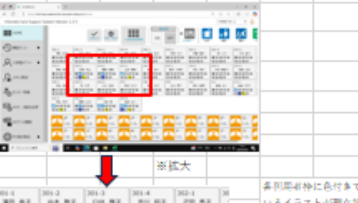
ケアモニターの画面表示

<通知設定確認>
ケアモニターの表示を切り替えてご利用者の通知設定を確認することができます。

・画面上の「入居者設定参照」を押す。



・画面が切り替わります。



※対応順に各行で表示されているイラストが順番設定されている通知です。
(本通知については別添録)

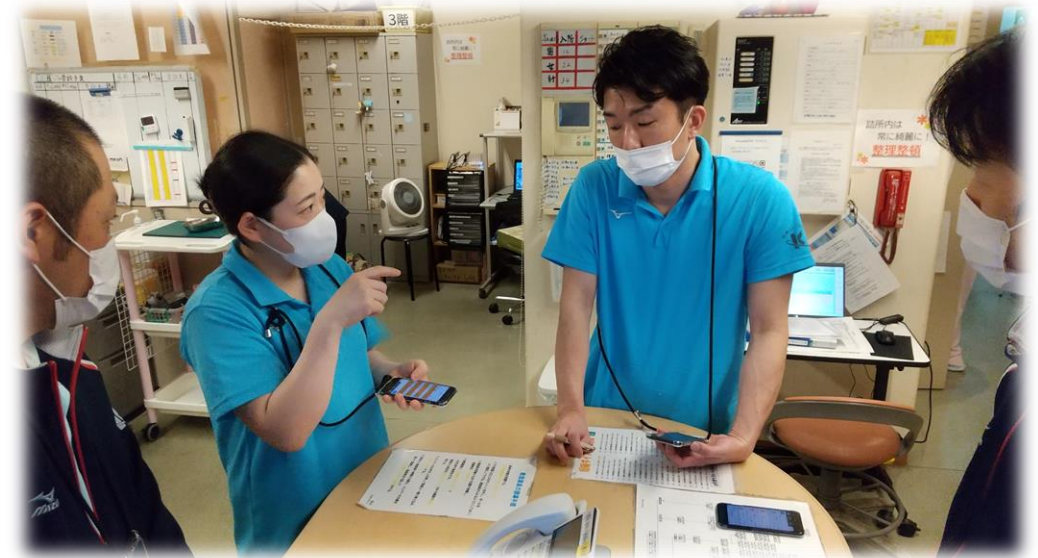
※対応順に各行で表示されているイラストが順番設定されている通知です。
(本通知については別添録)

通知の仕組み 種類

 起床 <ラインから体の一部が離れた際に通知> ①布団や足が出た際も感知します。 ②内側の蓋下も感知します。 ※起床・離床の通知はセンサー検知から約4秒遅延があります。	 離床 <ラインから体の90%以上がはみ出た際に通知> ①内側の蓋下も感知します。 ※離床・長時間離床の通知はセンサー検知から約4秒遅延があります。
 転倒・転落 <典型的な転倒> 自力からボタンと離れた状態に約2秒遅延して通知。 <転倒転落> その他の転倒・転落は約5秒遅延して通知。 ※転倒・転落の通知はセンサー検知から約4秒遅延があります。	 長時間離床 <長時間の離床時> 居室内の行動を把握したい方へ、起床と同時に各利用者の設定した、2分間隔に通知。 <通知> 12:00～13:00、13:30～14:00、30分ベッドに居ない場合 20:00～21:00、5分間ベッドに居ない場合 ※通知があった場合PCの設置場所にあるセンサーが検知される。
 微体動異常 呼吸等の体の動きが一定時間ない場合に通知。 検知から通知まで20～30分程度 ①医療機器相当の検知は発生しない。	

テスト運用開始

- 研修やマニュアル作成を通してHitomeQの操作方をより深く理解する事が必要だと感じ、予定していなかったテスト運用を急遽2/19～限定した居室で開始する事になった
- テスト運用期間中に通知が複数重なった場合iPhoneにどう通知が来て、どう対応するのか？等の職員が不安に思っていた場面を再現し体験してもらった
- テスト運用を行う事で他部署職員もより関心を持ち、意見交換が活発になった

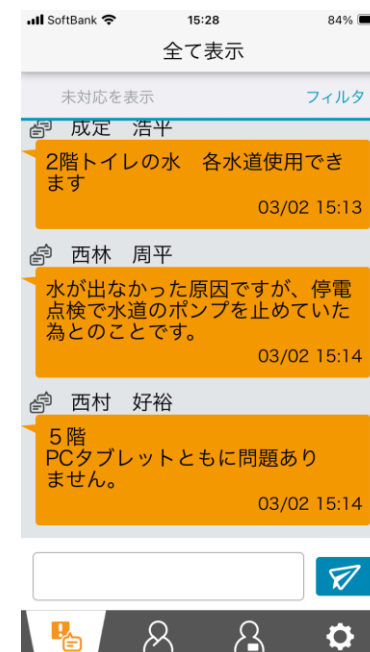
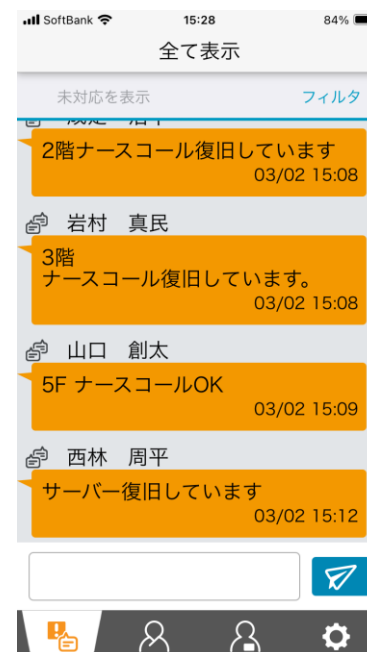
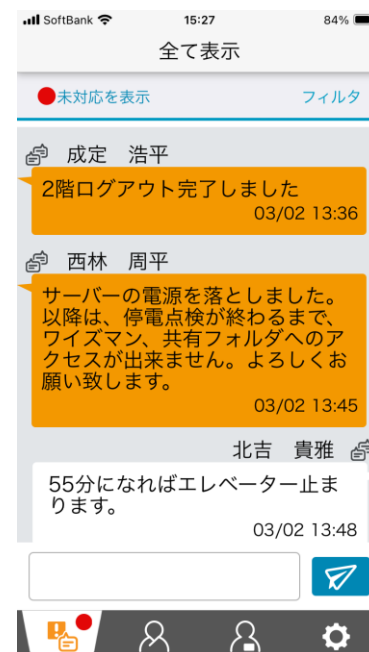


小さな改善事例の共有

- 職員から困ったこと、気付いたこと、これどうしたらいい？等の意見をGoogleフォームに入力してもらっているが、「助かった、便利だな、良いと思った点」についての意見が半数を占めており、ポジティブなスタートが切れていることを実感、フォームの集計を職員にも共有することにした

【計画停電時のメッセージ機能のテスト活用とiPhoneの活用】

- 3/2の計画停電時にメッセージ機能のテスト活用を行った、今までの計画停電時にはPHSが使用できなくなっていたため、各フロアへ順番に駆けつけて口頭で伝達していたが、HitomeQ通知アプリ内のメッセージ機能で出勤者全員に一斉にメッセージを送ることが可能になり、当日の出勤者全員が便利さを実感出来るいい機会になった



03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

本稼働開始

- 3/5～全床稼働開始しているが、現状大きな混乱もなく運用できている
- 稼働開始から2日間に渡りメーカー担当者が施設に常駐してもらったが、メーカー担当者からは「全体的に職員の習熟度が高く、システムの設定も問題ない、非常に高いレベルで運用開始出来ている」とコメントいただけている
- LIVE使用率が他施設の平均が50%前後、大今里は**74%**

各種平均値（介護老人保健施設）

カテゴリ	サブカテゴリ	導入床数 平均	1日当たり 通知数	1日1床当たり 通知数	LIVE利用率	通知時訪室率
全体平均	全24施設	91.3	732.9	8.1	42%	16%
エリア別	（関東）6施設	87.7	800.8	9.1	53%	15%
	（東海）14施設	83.7	593.1	7.0	37%	17%
	（関西）4施設	123.5	1120.3	10.1	52%	14%
床数規模別	50床未満平均	22.0	215.5	9.2	37%	17%
	50床～100床未満平均	71.8	513.1	7.0	46%	18%
	100床以上平均	112.4	932.4	8.5	41%	15%
	大今里ケアホーム様（4/6～4/20）	136	526.1	3.9	74%	24%

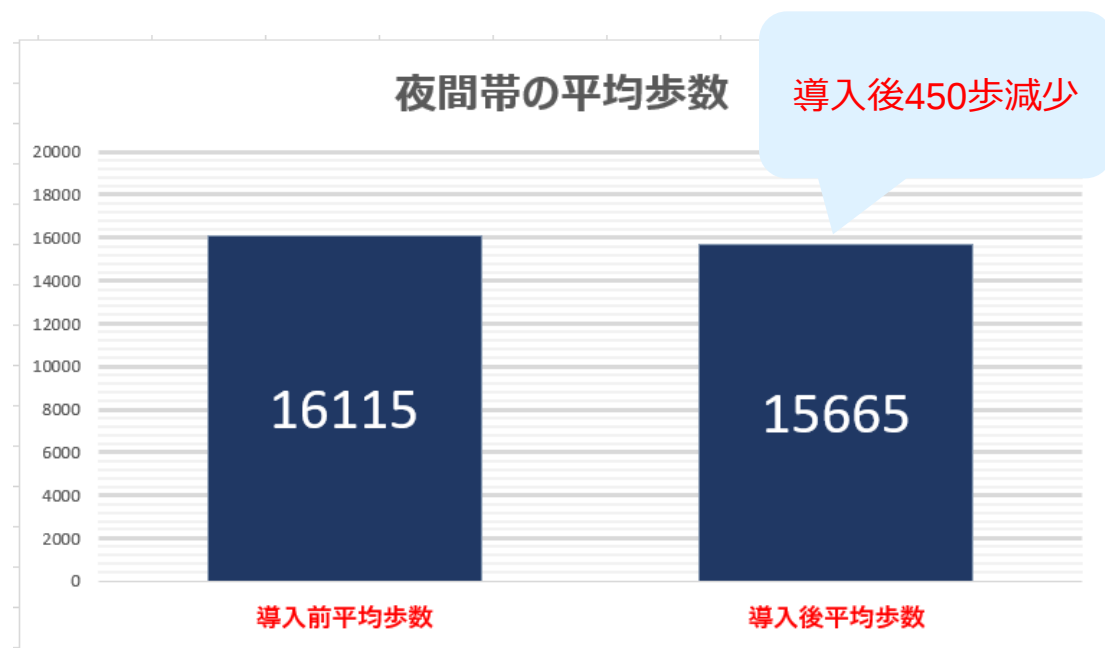


03 取組結果・成果

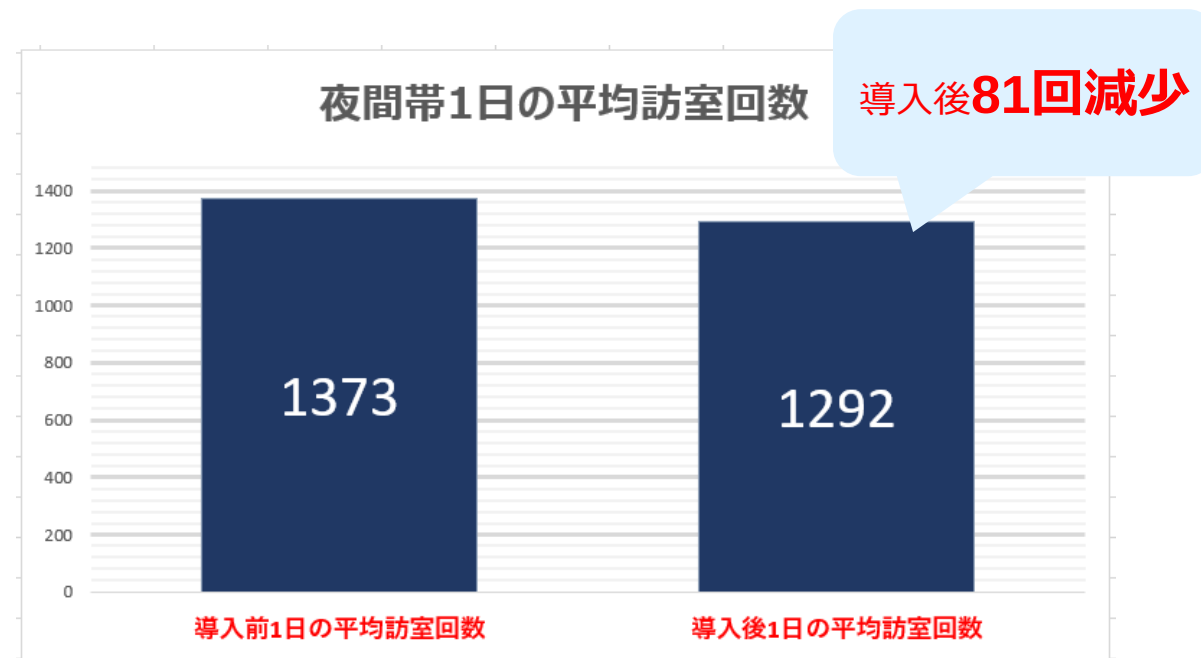
【手順5】改善活動を振り返ろう

KPI実践値

- 稼働開始1ヶ月後の4/6～導入後のKPI測定を実施



※2階～5階4フロア分の夜勤者平均歩数



※2階34床、3階35床、4階35床、5階32床、計136床全床の19：00～6：00までの平均訪室回数、1時間に1回の巡視含む

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

KPI実践値

- 転倒リスクの高い利用者様の訪室回数

転倒リスクの高い利用者様の訪室回数まとめ

利用者	導入前訪室回数		導入後訪室回数
2階 O様	15.2回	→	9.5回
利用者	導入前訪室回数		導入後訪室回数
3階 H様	18.8回	→	14.6回
利用者	導入前訪室回数		導入後訪室回数
3階 N様	19.0回	→	15.3回
利用者	導入前訪室回数		導入後訪室回数
3階 M様	16.5回	→	10.4回

※19：00～6：00までの1日平均訪室回数

※1時間に1回の巡視含む（上記数値の内9回は1時間に1回の巡視）

・HitomeQ導入前はベッドセンサーやセンサーマット等を使用して動き出しをすぐに察知出来るようにしないといけなかった転倒リスクの高いご利用者の訪室回数がHitomeQ導入後**約5回前後減**っている

カメラで居室内を見える化したことで不要な訪室を減らせている

03 取組結果・成果

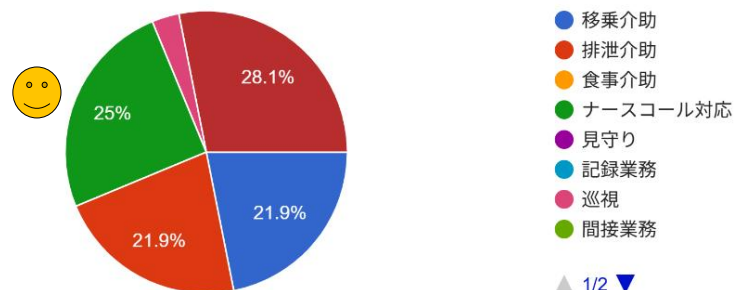
【手順5】改善活動を振り返ろう

KPI実践値

夜間帯の身体的負担、精神的負担を一番感じる業務は何ですか？

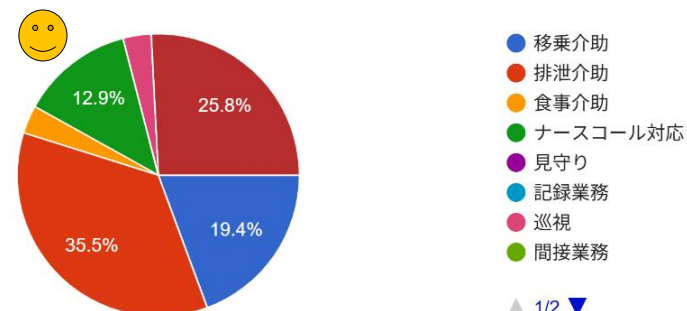
導入前

具体的に夜間帯のどの業務に身体的負担を感じていま...下さい。 1位：最も身体的負担を感じる業務
32 件の回答

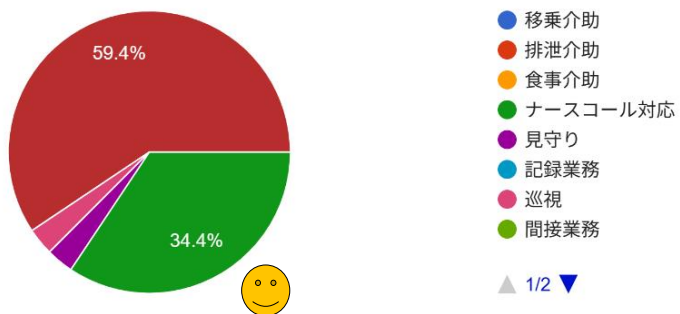


導入後

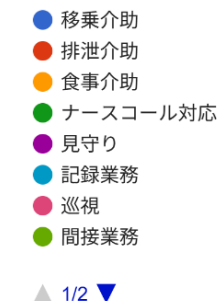
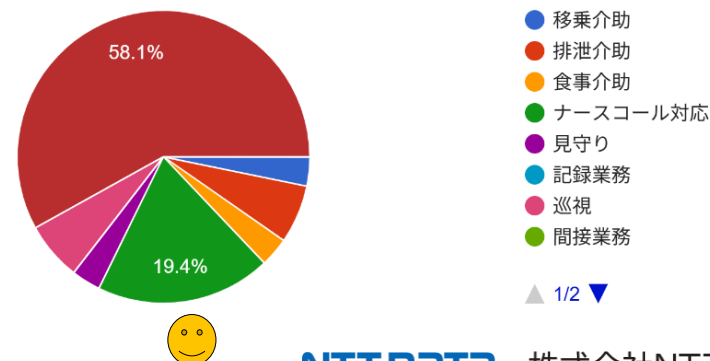
具体的に夜間帯のどの業務に身体的負担を感じていま...下さい。 1位：最も身体的負担を感じる業務
31 件の回答



具体的に夜間帯のどの業務に精神的負担を感じていま...下さい。 1位：最も精神的負担を感じる業務
32 件の回答



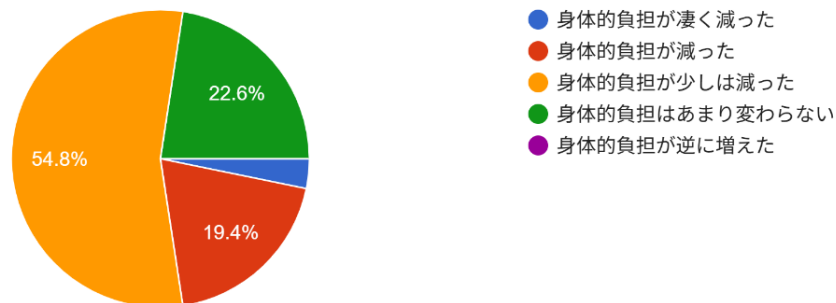
具体的に夜間帯のどの業務に精神的負担を感じていま...下さい。 1位：最も精神的負担を感じる業務
31 件の回答



KPI実践値 HitomeQ導入後アンケートの結果

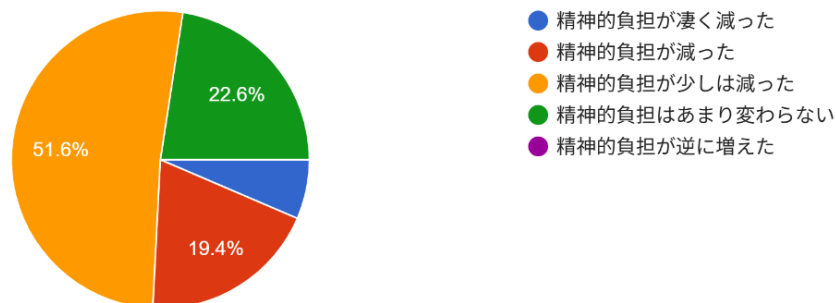
HitomeQを導入して夜間帯の身体的負担は減ったと思いますか？

31件の回答



HitomeQを導入して夜間帯の精神的負担は減ったと思いますか？

31件の回答



HitomeQを導入して

夜間帯の身体的負担は減ったと思いますか？
夜間帯の精神的負担は減ったと思いますか？
の質問に対し



75%以上が減ったと回答

実行計画の見直し

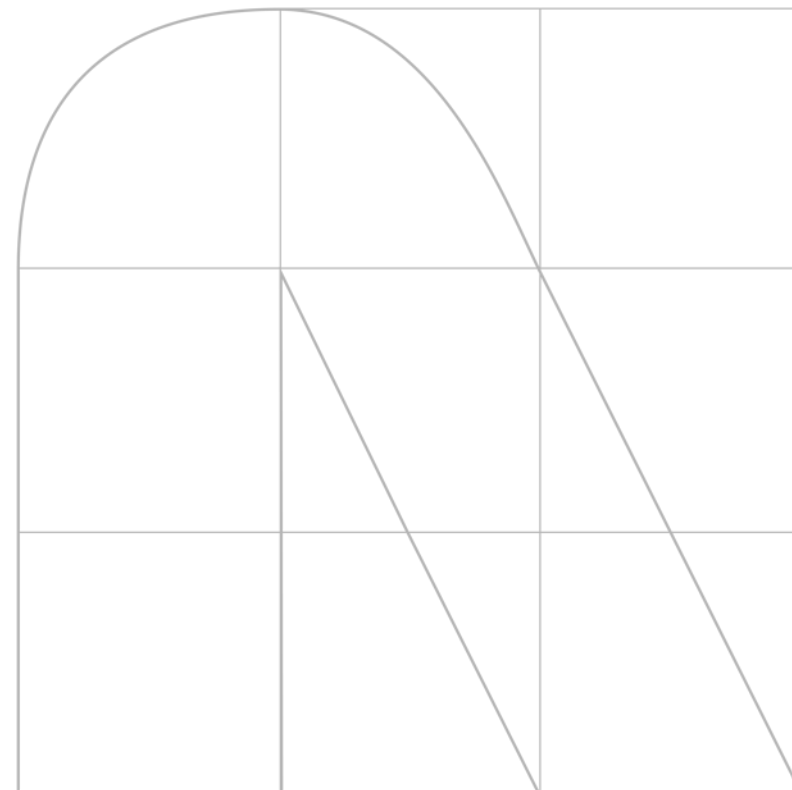
【導入計画書を練り直し、以下の取り組みや業務改善活動を追加した】

- 動画を活用した勉強会の開催（4月19日、4月21日）
- ナースコール用電池保管場所等の詳細決め（5月中）
- ADL表、ケアプラン、サマリー等書類の表記変更検討（5月中）
- 居室内外の表記変更検討（5月中）
- 職員のLIVE使用率等のデータ活用（毎月）
- KPIに居室内の転倒件数を追加（次回測定から）
- iPhoneとスプレッドシートを活用した入浴業務の業務改善活動（5月以降）
- iPhoneとGoogleカレンダーを活用した情報共有の業務改善活動（5月以降）
- HitomeQメッセージ機能を活用した連絡業務の業務改善活動（5月以降）
- HitomeQ動画を活用した業務改善活動（5月以降）



04

取組のまとめ



職員コメント

- センサーが反応した時、LIVE映像に切り替え手元で動作確認ができるので不要な訪室がなく対応できるのが良かった。
- 詰所内モニターの臥床表示を、確認する事で起き上がりが事前に分かり、予想対応がしやすかった。
- 足や布団が少しでも出たら反応していたので、感度は良いと思いました。通知が来ても、手元で確認できるので毎回訪室する必要がないのは良いと感じました。
- 朝方の離床時、利用者対応が重なってしまうが、NCが鳴っても危険性があるか映像で確認出来るので、優先順位が付けやすくて助かりました。
- LIVE映像を観ながら対応出来るので優先順位がわかって良かったです。



施設長コメント

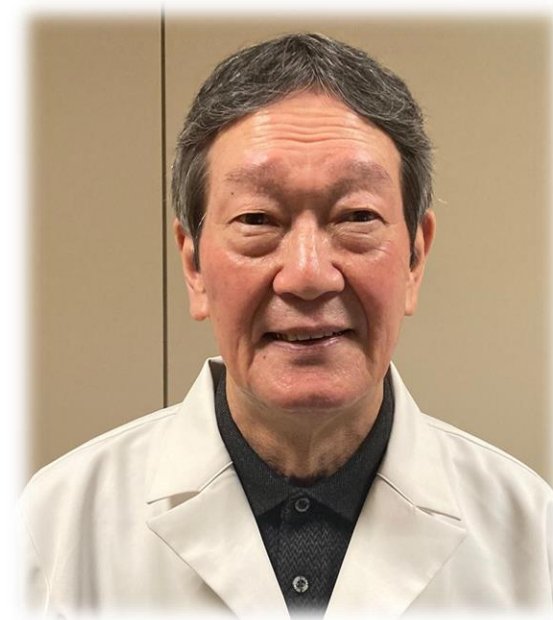
当施設では見守り機器「HitomeQ」を導入し、現時点でテスト段階ですが、最先端のテクノロジーを導入したことで、**施設全体の視野が広がったとイメージ**しています。その効果としては2点、

①ご利用者の安全確保と②職員の負担軽減に大きな効果を実感しています。

①については、入居者ごとの生活リズムやリスク傾向を把握しやすくなりました。今後、転倒予防やケアプランの見直しにも役立つのではと、強く感じています。

②については、**導入前は夜間の巡回や転倒リスクの高い方の見守りに多くの時間を費やしていましたが**、「HitomeQ」によりリアルタイムで異常を検知し、必要な対応を迅速に行えるようになりました。特に、**夜間の見守りにおいては、現時点でのテストデータから、職員の心理的・身体的負担が軽減**された、と結果が出るのではと考えています。

今後もテクノロジーを活用し、ご利用者様に安心・安全な環境を提供するとともに、職員の負担軽減につながる職場環境の改善を施設全体で推進してまいります。



プロジェクトを通じて得た学び、感じたこと

- 今回の取り組みを通じて改めて感じたのは事前準備の大切さです。細かく情報収集を行い、細かく計画を立てて取り組めたことで大きな混乱なく本稼働開始まで辿り着けたと思っています。
- デモ実施時やKPI測定時、テスト運用時にGoogleフォームを活用し、職員の意見を効率的に共有、職員の意見を素早く次のアクションに反映出来たことで、よりスムーズな導入準備が出来たと思っています。
- 今回の取り組みに主体的に参加してくれた職員達の力、そしてチーム力を改めて感じました。今後も取り組みを継続する事で更なるチーム力の底上げに繋がると感じています。

今後の方針

- 今後も大きな混乱が起きないように随時運用ルール等の見直しや、HitomeQとiPhoneの機能を活かした改善活動を行っていく
- ご利用者のプライバシーに配慮し、倫理に基づいた運用を行う
- 科学的介護の実践を目標に、HitomeQの機能と得られるデータを最大限活用しながら質の高いケアの提供を目指す

質の高いケアの提供を目指して



NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society